



さくらっこ!



戸塚区青少年指導員協議会は



目次

P.1…みんなと同じ じゃなきゃいけないの? 第二弾 / P.2・3…さあ出かけましょう! 季節の散策スポット!
P.4…20種目に挑戦! ~チャレンジフェスティバル~ / 2021年度 下期行事・2022年度 上期行事予定

No.23

子育て ワンポイント!

みんなと同じ じゃなきゃいけないの? 第二弾 *****

前号で、「人それぞれ違っていても良い、人それぞれ違って当たり前」、お互いの価値観や考え方を含み、それぞれの違いを認めてお互いを尊重しましょう、と多様性について考えてみました。

しかし、「人と違って良い」とは言え、「人と同じにしないとダメ」な場合もあるのではないのでしょうか。その区別はどこでつけば良いのでしょうか。もう一度頭を整理してみましょう。

例えば、大きな地震が起きた、急いで避難しなくてはならない。こんな場合に「さあ、個人の意見を尊重して行動しましょう」とは言っていられませんね。

災害などの緊急時の避難行動や昨今のコロナ禍でのマスクの着用など、安全に生きるための行動、命を守るための行動は、皆が同じ方向を向く必要がありそうです。ただ、そこにも安全に関する情報の信用度や信頼性において、行動に違いが生まれることは否めません。しかし、その時点で、生きるため、命を守るためにプラスとなる行動を皆が一緒にとることが重要です。

これは「**集団の合理性**」です。

中には緊急時の避難行動においても皆と同じように行動するのが難しい人たちもいます。例えば、身体が思うように動かない人たちや、その危機自体について理解が難しい障がいのある人たちや高齢者です。そういう人たちの存在も忘れてはなりません。彼らの特性を理解して援助することも、皆が生きるため命を守るためにプラスとなる行動です。

では「学校には必ず行かなくてはならないの?」と訊かれたらどうでしょう。もちろん、学校で学ぶ様々なことは生きるためにプラスとなる行動です。しかし、もし行くことによっていじめを受ける可能性があれば行かない方が良いでしょう。言い方は乱暴ですが、学校に行かなかったからと言って死ぬわけではありません。



“行きたくない理由”をしっかりと聴き、そこに生きるためのプラスの要因があるか考えることが重要です。

これは「**個の合理性**」です。

「人それぞれ違っていても良い」とは言ってみても、他人とは違う自分の気持ちや考えを「どうやって伝えれば良いだろう」、「誰に伝えれば分かってもらえるだろう」と、辛い気持ちを抱えながら生活している人もいることでしょう。

さらに自分とは違う他者の気持ちや考え方に困惑や驚きを感じ、受け容れられないことがあるかも知れません。

無理に受け容れる必要はありません。そして無理に分かってもらう必要もないのです。

ただ、自分を分かってもらおう、自分も相手を分かろうとする気持ちが大切なのです。



してはならないことは、自分と違うからと言って相手を排除することです。生きるためにプラスとなる行動には、共に喜び、共に悲しむなど気持ちの共有があることを忘れないでほしいですね。

生きるため、命を守るためにプラスとなる行動を判断基準にして

「**集団の合理性**」「**個の合理性**」のバランスをどのように取れば良いか、親子で話し合ってみましょう。

